第55号　2008年12月31日　©

南島文化研究所所報

沖縄国際大学南島文化研究所　所長　小 川　護
〒901-2701 宜野湾市宜野湾二丁目６番１号　電話　098-893-7967

与那「国」島小考

新 垣 誠 正

台湾の山から風が吹くといわれる与那「国」島は日本の最西端、台湾の東に位置している。台湾までの距離は111km、石垣島には124kmである。歴史的にみると、1522年に琉球王朝の支配下に置かれるまでは独立「国」であったという。さらに、台湾が日本領になると台湾住民とのあいだで物質や人の交流がおこなわれるようになったようである。そのこともあって、米軍の軍政下に置かれると密貿易が盛んになり、一時、島の人口が２万人にも膨れ上がったが、現在では1745人である。

与那国は他の島々と離れているため、与那国のもつ独自性を大いに大事にするという気風をもった島である。「与那国」という島意識が強い。それはまた、他の島々とは一味も二味も違うという与那国島独特の文化に対する誇りに由来するものであるようだ。島があたかも一つの「国」でもあるかのような気概をもっているといってもよいくらいである。それは他の島々から離れて存在する与那国島という地理的環境のなせるわざであるといえよう。

面積は28.88km^{2}と小さいながら、島は起伏がはげしい。島の南側と北では気象状況の違いが大きい。南側では波の浸食で断崖絶壁が多く、１年を通じて風が強く吹く。中央の山地に遮られた北では風は強くない。他の島々とは隔たった荒波に囲まれた孤島である。

島の人びとは、生きるために独創的に、計画的に、積極的に、前向きに進んでいこうとする気質をもっている。視野を世界に広げて島外へ出て行く人びとも、留まっている人びとも情熱をもってことにあたる意欲をもっている。それはまた、人びとの生きるために合理性をもった現実主義とも矛盾しない。これらは島のもつ厳しさのためであると考えられるし、孤島が抱える人口問題の厳しさのゆえでもあろう。

さいはての島は、しかし、地理上の利をいかして台湾を視野に入れて島の活性化につなげていこうとしている。外国に近い最西端の島として。

2007年度人事

新規所員（2007年４月１日発令）

氏名	所　属
友知政樹	経済学部准教授
山川彩子	経済学部講師
クレイグ・ジェイコブソン	総合文化学部教授
ピーター・シンプソン	総合文化学部准教授
ポール・スミンキー	総合文化学部准教授
澤田佳世	総合文化学部准教授
李イニッド	総合文化学部准教授
ドナルド・C・ウイルコックス	総合文化学部准教授

新規特別研究員（2007年４月１日発令）

氏名	所　属
皆藤　章	京都大学大学院准教授（心理臨床学）
木下直之	東京大学大学院教授（文化資源学・博物館学）
鍬塚賢太郎	琉球大学専任講師（人文地理学・経済地理学）
佐藤壮宏	大正大学非常勤講師（宗教人類学）
川島　淳	伊江島村史編集嘱託員（移民史・史料学）
千住直広	社団法人那覇市観光協会（社会調査法・NPO）
納富香織	沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室専門員（沖縄近代史）

（所員→特別研究員）

波平勇夫	前沖縄国際大学教授・元南島文化研究所所長（社会学）

所員会議及び議題

第１回所員会議　2007年５月14日（月）

報　告

1．2006年度事業報告
2．2006年度予算執行状況
3．2007年度事業計画について
4．2007年度行事予定について
5．2007年度予算について
6．紀要・報告書・所報の発行について
7．第148回～150回シマ研究会の開催について
8．大橋秀雄資料の受け入れについて

議　題

1．2007年度新規所員の選任について
2．2007年度新規特別研究員の選任について
3．第29回南島文化市民講座の開催について
4．第29回南島文化地域学習の開催について
5．協定校間国際学術シンポジウムの開催について
6．第29回南島文化市民講座の開催について
7．2007年度編集委員・図書委員の選出について
8．与那国島調査について
9．韓国・福建・台湾の調査について
10．第12回窪徳忠琉中研究奨励賞の募集について

第２回所員会議　2007年12月10日（月）

報　告

1．第151回～154回シマ研究会の開催について
2．第29回南島文化地域学習について
3．協定校間国際学術シンポジウムについて
4．第29回南島文化市民講座の開催について
5．南島研創立30周年記念誌の発行について
6．与那国島調査について
7．韓国調査について
8．台湾調査について
9．今年度発行の印刷物について
10．2008年１月～３月までの事業について

議　題

1．2008年度新規特別研究員の選定について
2．2008年度事業費予算案について
3．次年度協定校間国際学術シンポジウムについて
4．2008～2010年度の調査地域の選定について
5．３研究所再編案について
6．所長選挙の実施について

第２回所員会議（2007年12月10日）

第３回所員会議　2008年２月４日（月）

報　告

1．第155回シマ研究会の開催について
2．第12回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
3．与那国島調査報告講演会の開催について
4．2007年度予算執行状況について

議　題

1．所長・副所長人事について
2．2008年度所員の選任（更新）について
3．2008年度特別研究員の選定（更新）について
4．2008年度南島文化市民講座（協定校間国際学術シンポジウム）の開催について
5．2008年度南島研事業計画案について
6．2008～2010年度調査地域について
7．2008年度事業計画委員の選任について

2007年度事業報告

第151回シマ研究会

2007年４月16日（月）午後４時20分～６時
講　師：佐喜眞道夫 氏（佐喜眞美術館館長）
テーマ：「『沖縄戦の図』への想い」
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：稲福日出夫 所員
司　会：源河葉子 所員
参加者：23名

第151回シマ研究会（講師：佐喜眞道夫氏）

第152回シマ研究会

2007年５月21日（月）午後４時20分～６時
講　師：大石太郎 氏（琉球大学法文学部講師）
テーマ：「ニューカレドニアの土地と人々ー沖縄出身移民を中心にー」
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：石川友紀 氏（南島研特別研究員・琉球大学名誉教授）
司　会：石川朋子 氏（南島研特別研究員）
参加者：24名

第152回シマ研究会（講師：大石太郎氏）

第153回シマ研究会

2007年６月１日（金）午後３時30分～５時30分

講　師：大湾ゆかり氏・久部良和子氏・
仲本和彦氏（沖縄県文化振興会）

場　所：５号館204教室

テーマ：「公文書館in沖縄国際大学大学生のためのアーカイブス入門」

司　会：仲宗根 穣 氏（沖縄県文化振興会）

参加者：133名

第153回シマ研究会

第154回シマ研究会

2007年７月９日（月）午後４時20分～６時

講　師：兼本 敏 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

テーマ：「マカオの中国語事情」

ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：藤波 潔 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

司　会：崎浜 靖 専任所員

参加者：18名

第155回シマ研究会

2008年１月21日（月）午後４時20分～６時

講　師：児玉 絵里子 氏（南島研特別研究員・（財）海洋博覧会記念公園管理財団学芸員）

テーマ：「近現代琉球紅型に於ける画家の表現と文化財指定（伝統継承）の課題」

ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：金城 規克 所員（沖縄国際大学経済学部教授）

司　会：崎浜 靖 専任所員

参加者：22名

第29回南島文化地域学習

2007年６月22日（金）午前９時～午後５時

場　所：勝連半島及び周辺離島

テーマ：「勝連半島の自然と文化」

参加者：47名

南島文化地域学習（説明者：上原静副所長）

協定研究所間国際学術シンポジウム

2007年10月27日（金）午前９時～午後５時

場　所：沖縄国際大学本館６階会議室

テーマ：「東アジア文化圏の諸相 Part２－東アジアにおける家譜と民間信仰の比較研究」

第一部：「族譜及び家譜の比較研究」

司　会：小熊 誠 所員

報告者：陳 支平 氏（廈門大学文学院院長）
＊都合により不参加。林国平氏が代読。
「福建における族譜の基本的特徴」
金 東朱 氏（全南大学校湖南文化研究所）
「韓国の族譜」
田名真之 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）
「琉球家譜の特徴」

ｺﾒﾝﾄ：比嘉政夫 氏（南島研特別研究員・沖縄大学教授）
李 鎮榮 氏（南島研特別研究員・名桜大学教授）

第二部：「民間信仰の比較研究」

司　会：狩俣 恵一 所員

報告者：林 国平 氏（福建師範大学中琉歴史関係研究所）
「沖縄における観音信仰の研究」
表 仁柱 氏（全南大学校湖南文化研究所）
「韓国における村信仰の宗教的構造と類型」
稲福みき子 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）
「韓国・沖縄の海神儀礼の比較研究」

ｺﾒﾝﾄ：佐野賢治 氏（南島研特別研究員・神奈川大学日本常民文化研究所所長）
津波高志 氏（南島研特別研究員・琉球大学教授）

総合ｺﾒﾝﾄ：伊藤亜人 氏（南島研特別研究員・琉球大学大学院教授）

参加者：84名

第29回南島文化市民講座

2007年12月１日（土）午後２時～６時

場　所：県立博物館・美術館講堂

テーマ：「地域と博物館との関わりを考える－県立博物館・美術館の新たな展開をめざして－」

基調講演：木下直之 氏（南島研特別研究員・東京大学教授）
「博物館の力－人を立ち止まらせる場所について－」

ﾊﾟﾈﾘｽﾄ：翁長直樹 氏（沖縄県立博物館・美術館 博物館班長）
「沖縄県立博物館の可能性と課題」
萩尾俊章 氏（南島研特別研究員・沖縄県立博物館・美術館班長）
「博物館を中心としたネットワークづくり」
仲原弘哲 氏（南島研特別研究員・今帰仁村歴史文化センター館長）
「沖縄の地域博物館の果たす役割」
源河葉子 所員（沖縄国際大学経済学部准教授）

報告者の林国平氏

南島文化市民講座パネリストの皆さん

「ミュージアムと沖縄－地域の見方を考える－」
司　会：田名真之 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）
参加者：152名

第12回窪徳忠琉中関係研究奨励賞贈呈式

2008年３月７日（金）午後６時30分～８時
場　所：沖縄国際大学厚生会館４階ホール
受賞者：大浜郁子 氏（法政大学兼任講師）

受賞者の大浜郁子氏

第３回与那国島調査報告講演会

2008年３月15日（土）午後７時～９時30分
場　所：与那国町比川公民館
講　師：片本恵利 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）
「シマの暮らしと自分らしさ」
高橋俊三 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）
「与那国方言の語源を探る」
司　会：崎浜 靖 専任所員
参加者：57名

調査研究

与那国島調査の参加者とテーマ

片本恵利 所員 「地域文化と心理臨床」
杉本信夫 氏（南島研特別研究員）「与那国の祭祀と歌謡」
友知政樹 所員 「与那国の経済社会統計に関する研究」
崎浜 靖 専任所員 「与那国村落の歴史地理」

韓国調査の参加者とテーマ

名城 敏 所員「珍道及び済州島の自然環境調査」
上原 静 所員「先史・古代における琉球と韓半島の交流について」
呉 錫畢 所員「済州道における特別自治道の実施後の経済変化について」
友知政樹 所員「韓国カジノ（江原道・済州島）がもたらす社会的影響に関する調査」
崎浜 靖 専任所員「済州島の歴史地理」

台湾調査の参加者とテーマ

兼本 敏 所員「台湾南部における借詩の調査」
宮城邦治 所員「琉球嶼の自然環境に関する生態学的研究」
藤波 潔 所員「台湾を軸とした近代化・現代化に関する歴史学的アプローチ」

松本三益資料研究会

参加メンバー：吉浜 忍 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）
藤波 潔 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）
鳥山 淳 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）
納富香織 氏（南島研特別研究員・沖縄県文化振興会公文書管理部資料編集室専門員）

松本三益資料研究会のメンバー

2008年度人事

所　長：小川 護 経済学部教授（地理学）
副所長：上原 静 総合文化学部教授（考古学）

新規所員（2008年４月１日発令）

村上了太	経済学部教授
上江洲 薫	経済学部准教授
李 玄正	総合文化学部講師
望月謙二	総合文化学部教授
上田幸彦	総合文化学部教授
山入端津由	総合文化学部教授
安次富郁哉	総合文化学部教授
井村弘子	総合文化学部准教授
比嘉正哉	総合文化学部准教授

新規特別研究員（2008年４月１日発令）

佐野賢治	神奈川大学常民文化研究所所長（民俗学）
萩原佐人	琉球大学法文学部准教授（民俗学）
山本 伸	四日市大学教授（英米文学）
翁長直樹	沖縄県立博物館・美術館（芸術学）
稲福政斉	豊見城市教育委員会文化課市史編集業務嘱託員（民俗学）

所員会議及び議題

第１回所員会議　2008年５月19日（月）

報　告
1．2007年度事業報告
2．2007年度予算執行状況
3．2008年度事業計画について
4．2008年度行事予定について
5．2008年度予算について
6．南島研30周年記念誌の発行について
7．紀要・報告書・所報の発行について
8．第156回～158回シマ研究会の開催について
9．南島研叢書〔Ⅱ〕の発行について

議　題
1．2008年度新規所員の選任について
2．第30回南島文化市民講座（協定校間国際学術シンポジウム）の開催について
3．南島研各種事業委員の選出について
4．久米島総合調査について
5．韓国・福建・台湾の調査について
6．第13回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の募集について

第２回所員会議　2008年12月８日（月）

報　告
1．第156回～160回シマ研究会の開催について
2．第30回南島文化地域学習について
3．第30回南島文化市民講座（協定校間国際学術シンポジウム）の開催について
4．久米島総合調査について
5．韓国調査について
6．福建・台湾調査について
7．第13回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の応募状況について

8．久米島調査報告講演会の開催について
9．今年度発行の印刷物について
10．事業費予算執行状況について

議　題

1．2009年度新規特別研究員の選定について
2．2009年度事業費予算案について
3．所長の退任について

第２回所員会議（2008年12月８日）

シマ研究会

第156回シマ研究会

2008年５月12日（月）午後４時20分～６時
講　師：石原昌家 所員
テーマ：「イデオロギーの問題となった集団自決という言葉の意味－軍民一体意識の形成をめざす国防族－」
場　所：５号館107教室
司　会：安良城米子 氏（沖縄国際大学非常勤講師）
参加者：61名

第157回シマ研究会

2008年６月９日（月）午後４時20分～６時
講　師：前門 晃 氏（琉球大学法文学部教授）
テーマ：「石灰岩研究の宝庫 琉球列島」
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：名城 敏 所員
司　会：新垣 武 所員
参加者：21名

第158回シマ研究会

2008年７月28日（月）午後４時20分～６時
講　師：友知政樹 所員
場　所：図書館ＡＶホール
テーマ：「沖縄におけるカジノ導入是非論のあり方」
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：来間泰男 所員
上江洲豪 氏（南西地域活性化センター）
司　会：野崎四郎 氏（沖縄国際大学経済学部教授）
参加者：41名

第158回シマ研究会（講師：友知政樹所員）

第159回シマ研究会

2008年10月20日（月）午後４時20分～６時
講　師：納富香織 氏（南島研特別研究員・公文書館管理部編集室専門員）
テーマ：「1950年代の沖縄における文学と抵抗－高校文芸誌を中心に－」
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：鳥山 淳 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）
司　会：大野隆之 所員
参加者：24名

報告者の納富香織氏

第30回南島文化地域学習

2008年６月21日（金）午前９時～午後５時
場　所：久高島
テーマ：「久高島の自然と文化」
参加者：52名

地域学習の参加者

第30回南島文化市民講座

―協定校間学術シンポジウム―

2008年11月29日（土）午前10時～午後５時30分
場　所：浦添市てだこホール（小ホール）
テーマ：「東アジア文化圏の諸相 Part３－近代化と伝統芸能－」
講　師：劉 富琳 氏（中国福建師範大学副教授）
「福建における戯曲と近代化」
金 容儀 氏（韓国全南大学校副教授）
「韓国の重要文化財と伝統芸能」
三隅治雄 氏（芸能学会会長）
「日本の近代化と伝統芸能」
狩俣恵一 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）
「沖縄における近代化と伝統芸能」
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：王 耀華 氏（福建師範大学教授）
梁 會錫 氏（全南大学校教授）
崎山律子 氏（フリージャーナリスト）
通　訳：呉海燕 氏（中国語）
真島知秀 氏（韓国語）
司　会：西岡 敏 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）
参加者：140名

南島文化市民講座パネリストの皆さん

調査研究

久米島総合調査の参加者とテーマ

小川 護 所長　「久米島の地域農業」
来間泰男 所員「久米島の農業」
小熊 誠 所員　「久米島における家譜と祖先祭祀に関する調査研究」
片本恵利 所員「久米島の地域文化と心理臨床」
安次富郁哉 所員「祝女のカウンセラー的役割に関する歴史的評価」
西岡 敏 所員　「久米島方言の言語学的研究」
上江洲薫 所員「久米島における観光開発」
名城 敏 所員　「久米島の土壌」

吉浜 忍 所員 「『学校日誌』に見る久米島の近代教育」

近藤健一郎 氏（南島研特別研究員・北海道大学准教授）「『学校日誌』に見る久米島の近代教育」

納富香織 氏（南島研特別研究員）「『学校日誌』に見る久米島の近代教育」

杉本信夫 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）
「久米島歌謡の変容について」

仲原 穣 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）
「久米島の方言」

上江洲 均 氏（南島研特別研究員・久米島自然文化センター前館長）
「久米島の民俗」

崎浜 靖 専任所員「久米島の歴史地理」

学習会講師

上江洲 均 氏（南島研特別研究員・久米島自然文化センター元館長）

上江洲盛元 氏（久米島自然文化センター館長）

久米島調査の学習会

久米島調査のスタートにあたり、調査メンバー全員で久米島の自然・文化・歴史を理解するための巡検と学習会を行った。
(2008年8月25日)

ショック二題

南島研特別研究員　杉本信夫

はたして現時点で、ウムイ（オモロ）などの「古謡」が採集できるのだろうか･･･。やはり久米島のウムイは絶えていた。

かつて君南風（チンベー）の配下の10名だったヌール（ノロ）も今は2名に減少し、6月ウマチーの具志川城登（ぐしくぬぶい）の神行事と雨乞い行事だけはかろうじて残っているが、ウムイはテープを流しているだけである。しかもこのテープも、調査に来た学生によってコンピューターによる電子音処理されたもので、音質は変化し何をうたっているのか、古いテープを貸した元具志川村教育長で、君南風の血筋をひく中村昌昭さんでさえも分からない。元の古いテープは返されていない。コンピューター万能時代の若い研究者が善意でやってくれたのだろうが･･･。

41年前の1967年、久米島の民謡採集をしたときの、民俗や生活を撮った写真を持って集落を巡った。当時38歳だったハブ捕りの名人でうた三線の達人であった友寄清安さんだけが健在であった。年老いた奥さんと二人暮らし、しかしお家の屋根は台風で壊れたまま、雨露を凌ぐためにブルーシートで覆われていた。わたしが泊めていただき、宇根ヌールのウムイなどのうたを教えていただいた、山城タル（83歳）さんのお家を訪ねたが廃屋同然、屋根瓦は崩れ落ち、屋内の床も朽ち果て、見るも無残な状態で、仏壇には御位牌もなにもなかった。

一方、この泊部落のすぐ近くの海岸線には豪華で近代的な日航系イーフビーチホテルなどができ、ビーチ通りはまるで外国のリゾート、別荘地のようで、観光客目当ての瀟洒なお店が建ち並んでいる。このあまりもの対照的な姿にショックを受ける。

上江洲均先生によるとウムイの歌唱については未調査という。南島研の3年間の久米島総合調査のなかで、手作業であるが、できるだけウムイなどのうたの復元に努力したいと思う。

(2008.9.10)

韓国調査の参加者とテーマ

名城 敏 所員 「韓国済州島及び珍道の自然環境調査」

上江洲 薫 所員「韓国の観光」

呉 錫畢 所員 「韓国珍道の経済状況調査」

友知政樹 所員 「韓国におけるカジノがもたらす社会的影響に関する調査」

稲福みき子 所員「韓国のさまざまな祭祀における珍道の特色調査」

狩俣恵一 所員 「韓国珍道の祭祀芸能における社会的役割についての調査」

崎浜 靖 専任所員「済州大学校保存の沖縄関係資料の調査」

福建・台湾調査の参加者とテーマ

小熊 誠 所員「協定校間シンポジウム事前打ち合わせ及び福州集落調査」

兼本 敏 所員「台湾南部における借詩の調査」

藤波 潔 所員「台湾を軸とした近代化・現代化に関する歴史学的アプローチ」

韓国調査（済州島調査）メンバー

南島研事務室の移転と新館の建設

2007年8月上旬、南島文化研究所は、新館（13号館）建設のため、図書館4階に移動した。移動にあたっては、現在、南島文化研究所のあった2号館を全面解体して、同じ敷地内に6階建ての新館を建設中である。その間、所員・特別研究員の皆さんには、図書資料の貸し出しや利用が大きく制限され、大変ご迷惑をおかけしております。

新館（13号館）には、研究所事務室、教員研究室、大学院講義室などが設置されるが、南島文化研究所に関わる施設は、1階に事務室と図書室、研究会室、所長・専任所員執務室等が設置される予定である。なお、供用開始の2009年4月1日からは、南島文化研究所、産業総合研究所、法政研究所の各研究所事務室が一つに統合されることになっている（研究所事務組織の統合）。

寄贈資料の紹介－大橋秀雄資料－

南島文化研究所は、2007年4月28日に、戦前、特別高等警察に勤務していた故大橋秀雄氏のご遺族である中島和子さんから、史資料約数千点を御寄贈いただいた。寄贈資料には、「ゾルゲ事件」で知られるソ連赤軍諜報員、リヒャルト・ゾルゲ直筆の手紙、ゾルゲと諜報活動に関わり逮捕された名護市出身の画家・宮城与徳の尋問調書、近衛文麿首相のブレーンであった朝日新聞社の尾崎秀美らの調書もある。その他、「内閣情報局週報」など太平洋戦争、沖縄戦に関わる史資料も含まれており、南島研では、これら史資料を整理・保管し、目録化や翻刻などに取り組む予定となっている。

韓国カジノ事情

友知政樹

昨今、沖縄県へのカジノ導入是非論が再燃している。2007年度、沖縄県は600万円の予算を組み「沖縄県カジノ・エンターテインメント検討委員会」を立ち上げ、2008年度に至っては倍以上の予算（1410万円）を「カジノ・エンターテイメント検討事業」に計上した。検討委員会の人選などをはじめ、当委員会に対して様々な疑念を抱くことを禁じえない中、2007年９月10日から６日間、南島文化研究所「韓国総合調査」の一環で、韓国北部の江原（カンウォン）道にある公設民営のホテル一体型カジノ施設「江原道ランド」、ならびに済州（ジェジュ）島にある複数の民設民営カジノを見学する機会を得た。

江原ランドにおけるカジノは、2006年４月１日から同７日の朝日新聞（夕刊）における連載記事（全６回）「切り札の裏表・新カジノ事情」の中で、賭博依存症の問題がクローズアップされた第３回（2006年４月４日）において取り上げられ、是非とも訪ねてみたかったカジノのひとつであった。江原ランドは韓国国内で唯一、外国人に加えて韓国国内人が利用できるカジノで、利用客の98％は韓国国内人であるという。

那覇－仁川（インチョン）－ソウル－江原道太白（テベク）と飛行機と長距離バスを乗り継いで江原ランドに到着したのは10日（月曜日）の午後９時ごろであった。驚いたことに、カジノのテーブルやスロットマシンは客（韓国国内人）で一杯であった。月曜の夜だというのに混んでいるのである。ソウルから車を３時間程とばしてカジノにやって来て、疲れたら車中で仮眠を取り、再びギャンブルに明け暮れる者も多いという。さらに驚いたのは、２日目（11日）にホテルの近くの焼肉屋のおばさんに教えてもらったことであった。昨晩のカジノの混み具合に驚いた旨を伝えると、週末はテーブルやスロットマシンが埋まるどころではなく、それこそ足の踏み場もないほどごった返するとのことであった。食事を済ませた後、我々は江原ランド施設内にある「賭博中毒センター」へと足を運んだ。そこで、カウンセラーの一人から１時間余り話を聞くことができた。曰く、賭博依存症の問題は深刻で（朝日新聞で紹介されていたとおり）、未公開のデータとして30、40歳代の利用者が最も多く、それに比例して依存症患者も多いという。カウンセラーも疲労困憊という感じである。

３日目（12日）早朝、我々は済州島へと移動した。済州島のカジノを見学することができたのは４日目（13日）の午後６時ごろであった。済州島のカジノは原則として外国人のみが利用可能である。２ヶ所のカジノを見学したが、どちらも閑古鳥が鳴いていた。とくにひとつのカジノでは私が唯一の客であった。そんな済州島のカジノも、韓国国内人（ただし、今のところ済州島島民は除く）の入場を国側に認めてもらうべく、水面下での活動が始まっているというのを、済州特別自治道の役人に教えてもらった。もしそうなれば、ここでも賭博依存症の問題が頭をもたげてくるのは間違いないであろう。ちなみに済州島では競馬依存症が既に社会問題化している。

沖縄県へのカジノ導入是非論について、今後とも注目していきたい。

（この原稿は2008年３月に執筆されたものです。）

江原ランド施設内にあるポスター。「ゲームYES!! 賭博NO!!」と書いてある。矛盾している気がするのは私だけであろうか？

編集後記

今年４月で南島研は創設30年を迎えた。その間、奄美諸島、宮古諸島、八重山諸島の調査を終え、今年度からは、久米島の総合調査を開始した。所報第１号には、安里源秀先生の「学際的な共同研究の発展をめざして」と題した巻頭言がある。その一文の中に、「文化の諸相は宗教・民俗・文学・芸術・政治・生産活動・社会の諸制度等多岐にわたるものである。したがって人類学・民俗学・考古学・歴史学・・・法律学等の研究対象となるが、文化の諸相は関連融合して一つの文化体系をなしているのであるから、諸科学の学際的な共同研究も重要なものとなるであろう」と述べている。来年は南島研創設の原点に立ち返り、学際的な共同研究に打ち込みたいと思う。（崎浜）